

平成27年度和歌山県学習到達度調査

結果分析と指導のポイント

小学校 国語

平成28年2月
和歌山県教育委員会

◆教科書にそった改善の工夫の具体例（文学的な文章では）

次の情景からは、「大造じいさん」のどのような心情が想像できるだろう。他にも、情景がえがかれているところをさがし、心情を考えよう。

- ・あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れこんできました。

（光村図書 平成二十七年発行 国語五 銀河 一三三ページから）

① 読みとるための方法を指導する。

まず、問われている文の内容をとらえさせます。「あかつき」や「すがすがしい」の意味は辞書で確認します。
次に、「この文にえがかれている大造じいさんの気持ちを考えさせます。最後に、問われている文とまわりの文にえがかれている大造じいさんの行動や気持ちの記述を関係づけて考えればよいことを指導します。
例えば、「会心のえみをもらいました。」「と」しめたぞ。」「等を関係づけて考えさせます。

② 条件に合わせて読みとったことを記述させる。

児童の探した情景がえがかれているところを確認します。情景がえがかれているかどうかは、指導者が説明し、①の方法を活用して、心情を考えさせます。
例えば、心情を考えた理由を二つ書きなさい、○字以内で説明しなさい等の条件を設定し記述させます。

③ 反復練習させる。

教材を利用して、家庭学習等で反復練習できればよいですが、あらかじめ条件が似ている文章を探しておき、反復練習させることも効果的です。
例えば、椋鳩十の他の作品で情景のえがかれている文章を示し、反復練習させます。

◆様々な条件を提示した反復練習

例えば、要旨をとらえることに関して、県到達度調査では、次のような問題を出題しています。児童の実態や学年に応じて条件をかえていますので、反復練習をさせる際に参考にしてくださいと考えます。

「要旨をとらえる」ための方法

まず、要旨は、筆者が取り上げている内容の中心となる事柄、あるいは、それについて考えるの中心となる事柄であることを指導する。次に、要旨をとらえるための方法を指導する。題名や何回も出てくる言葉に着目すること、文章の始まりやまじめに要旨に関わることを書かれてあることが多いこと、それ以外の意見の文にも筆者の考えが表れていること等を指導する。

【例1】

この文章で、筆者の言いたいことを、次のようにまとめます。
本文中の言葉を使って に書き入れ、文を完成させなさい。

ステップ① 要旨を学習している三四年生の段階

【例2】

この文章の要旨をまとめました。あとの条件に合わせて要旨を完成させなさい。

【要旨】

わたしたち一人一人につきつけられた課題は、
を見直し、人間もホタルもともに
考えることです。

②

①

ステップ② 要旨を学習し始めた五年生の段階

条件

- ①は、本文から八字の言葉を抜き出すこと。
- ②は、二十字で書くこと。

【例3】

この文章の要旨をまとめます。次の条件に合わせて書きなさい。

条件

- 「健康」、「楽しむ」の言葉を使って書くこと。
- 句読点をふくめ、五十以上、七十以内で書くこと。

ステップ③ 児童が、要旨を自分で考える六年生の段階

★児童の実態や教材文に合わせて**ステップ①②③**を効果的に利用してください。

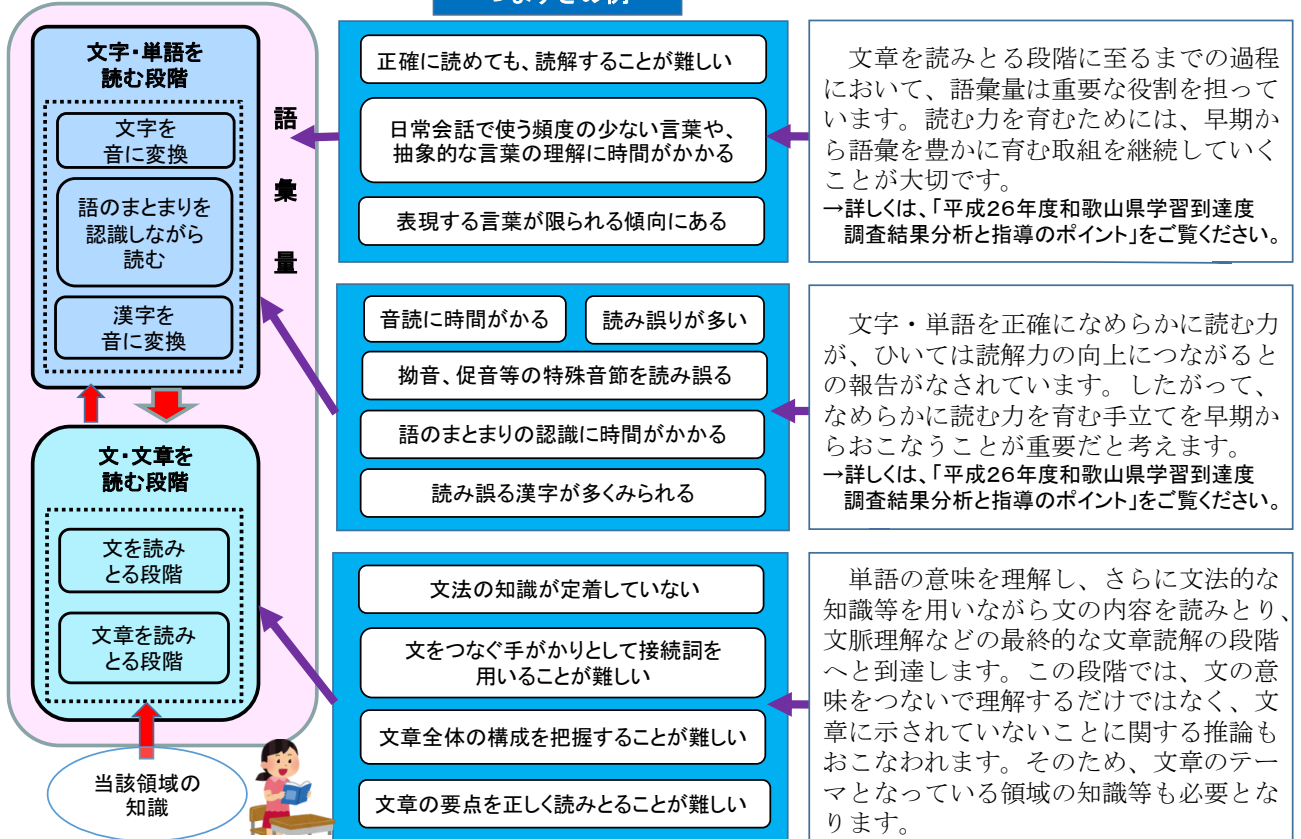
つまずきに対応するために

読む力を伸ばすために

～読解過程のどこでつまずいているのかを把握し、指導・支援につなぐ～

読解過程のモデル例

つまずきの例



漢字の学習に関する支援の例

読解のつまずきの背景には、熟語の難しさが影響している場合もあります。抽象的な意味の熟語は小学校の高学年になるにつれて増えてきます。

具体的な意味の熟語の例	抽象的な意味の熟語の例
外国・台風 工場・空港	分別・苦心 感知・選別



漢字の学習では、

- ・漢字に視覚的イメージ(絵や写真等)を持たせ、読みと結びつけていく
- ・漢字を訓読みして平易な言葉に言い換えをする。

例) 集配 → 集める + 配る

など、漢字の読みと意味をあわせた支援を取り入れましょう。

- ※漢字の音読には語彙力が関わります。児童が熟語の意味を理解できていることを確認しながら音読の練習を進めましょう。意味を理解できない単語は、語彙としても蓄積されにくいとされています。
- ※熟語は、児童が普段からさまざまな場面で目にしたり耳にしたりするものです。学習では、例えば、他教科で同時期に学習している教材の熟語についても、上記のような工夫を取り入れることが有効です。

文字・単語を読む段階の支援の例

この段階でつまづいている場合、文字や単語を音に換えることに時間やエネルギーが費やされるため、読解力のみならず、読んでいこうとする意欲にも影響が及んでいきます。

低学年段階からの手立てを！ 「入門期」は特に大切な時期と報告されています。

【支援例①】

まとまりとしてとらえられる語を増やすために語彙の拡大を図る。



- ・言葉遊び等で、語彙の拡大を図る。
- ・読書環境を整備し、日常的に読書に親しませる。
- ・辞書等を利用して調べる習慣を身につけさせる。
- ・学んだ言葉を他教科においても活用することで習得を図る。

【支援例②】

動作化や視覚化によって、特殊音節の音節構造をわかりやすく示す。

- ・動作化の例：きって→①手を叩く②両手にグーを作る③手を叩く
- ・視覚化の例：きって●●● ぼうし●—●
きんぎょ●●●◎ ちきゅう●◎—

指導・支援のポイント 「楽しみながら」「達成感を得て」「自信や意欲を高められるように」

【支援例③】

音読の際、文中の語のまとまりをとらえにくい場合には、そのまとまりを認識できやすいような手立てをおこなう。

- ・単語ごと、もしくは文節ごとに横線を引いたり、分かち書きにしたりする。
- ・文章中に出てくる単語を絵や写真で示す。

【支援例④】

読みに時間がかかる場合、子供の実態に合わせた環境調整をおこなう。

- ・漢字に振り仮名をつける。
- ・文章をリーディングして聞かせる。
- ・文字のサイズや行間を読みやすい大きさに調整する。

【参考文献】

- ・国立特別支援教育総合研究所(2015)「特別支援教育の基礎・基本 新訂版」
- ・国立特別支援教育総合研究所(2008)平成18～20年度文部科学省科学研究費補助金(若手研究A)研究成果報告書



文章を読みとる段階の支援の例

文と文の関係や、段落と段落の関係をつなぎながら読みとることが難しい場合

【基本本文】

ラッコは、どうして海そうを体に巻き付けて眠るのでしょうか。

ラッコが眠る時には、海流に流されてしまうおそれがあります。海そうには、波や風を受けてもちぎれることは少ないという特徴があります。ラッコは、それらのことを知っています。

だから、ラッコは、海そうを体に巻き付けて眠るのです。

【支援例①】基本本文の文章中にある接続詞を外し、文と文の関係をわかりやすくしたものを示すと読解が促されたとの報告がなされています。

ラッコは、どうして海そうを体に巻き付けて眠るのでしょうか。

ラッコが眠る時には、海流に流されてしまうおそれがあります。海そうには、波や風を受けてもちぎれることは少ないという特徴があります。

海そうが、海流から身を守ってくれることを知っているので、ラッコは、海そうを体に巻き付けて眠るのです。

「だから」の前には理由が、後には結果が述べられているんだね。

問い

ラッコは、どうして海そうを体に巻き付けて眠るのでしょうか。

説明

ラッコが眠る時には、海流に流されてしまうおそれがあります。海そうには、波や風を受けてもちぎれることは少ないという特徴があります。

答え

海そうが、海流から身を守ってくれることを知っているので、ラッコは、海そうを体に巻き付けて眠るのです。

なるほど。展開を予想しながら読めるよ。

【支援例②】左のような支援に加え、上記のように文章の構成を示すと、さらに読解が促進される場合もあると報告されています。



これらの手立てによって、接続詞の役割や文章の構成についての理解も深まると考えられます。

接続詞の役割や文章構成についての理解が深まると、それらを文章全体の意味を読みとる手がかりとして用いることができるようになります。

【参考文献】

- 小野塚裕子・後藤隆章・小池敏英(2010) 東京学芸大学紀要総合教育科学系 I 61:281-290

